

# 令和5年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)  
Happy+Natural  
Happy+challenge

(保育目標)  
げんきな子 やさしい子  
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている      B：わりとできている  
C：一部改善が必要      D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育目標について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	B	保育理念、目標については一定の理解が得られている。保育について、子どもたちのつぶやきや子ども同士の会話などに耳を傾け、子どもたちがやりたいこと探求したいことなどに保育者が寄り添った保育を進めた。全体的に保育の取組みが園で簡潔になってしまうことが多いため、もっと地域資源を活用し、地域や保護者を巻き込み、よりリアルな体験に繋げていきたい。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切に保育をしている	B	B	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	A	A	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	A	不適切保育や保育中の事故等の報道がある中、その都度、園全体で子どもとの関わり方の振り返りや安全面の確認を行った。子どもと関わる中で、大人の都合ではなく、常に子ども中心で保育を考えていくことを再確認した。保育を進める中で継続性に欠けることがあった。今後は繋がりがりや保育の継続性を意識しながら保育を進めて行く。また、結果やゴールも大切だが、それまでの過程・プロセスも大事にしていく。保育環境について、子どもの興味関心は変わっているのに環境に変化が見られないことがあった。今後は環境構成委員と連携し子どもたちがワクワクし遊び込める保育環境を目指していく。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	A	A	
	(3)素材・用具を適切に使用している	B	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	A	A	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい	B	B	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	A	栄養士と保育士が連携しながら食育を進めた。栄養についてや、食の大切さを伝えることで食への関心も深まった。また、クッキングも定期的に行い様々な経験ができた。アレルギーに関しては、保護者と連携を取りながら個別に対応した。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	B	A	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	A	
役員研修分担任	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	B	保育中に地震が発生した際、職員一人ひとりが冷静かつ子どもの安全を最優先に避難誘導していた。今後もあらゆる状況を想定し、緊張感を持って避難訓練を行う。保育者としての資質向上のため計画的に研修に参加できた。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	B	A	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	A	

		前年評価	今年評価	現状・課題
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	A	A	お迎えの際に、その日の出来事や子どもの様子を丁寧に伝え子どもの成長を共有している。 園として年2回、面談を実施しているが、それ以外でも保護者からの要望があればいつでも面談を行っている。 今年度よりクラス間の交流会(保護者・子ども・職員の交流)を実施した。普段ゆっくりと話す機会もないため貴重な時間となった。今後も継続していきたい。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	A	A	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	A	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きつずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	A	A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	A	A	

開かれた保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	A	B	気になる子や配慮の必要な子に対しては専門機関に相談や連携を取りながら関わった。 小学校連携に関し、以前に比べ、小学校主催の取組みが少なくなっており、連携や情報交換を取る機会が減っている。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	B	B	

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	B	B	法人で取り組んでいる子育て支援にて親子交流の場を設けている。 法人でインスタを開設しており、定期的に自園の様子を発信している。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	B	A	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	B	B	

## 総合的な現状と課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念を共有し、園の年間計画をもとに保育を進めた。保育を進める中、クラスによっては保育が停滞していたり、保育環境に変化が見られない時期があった。そのような時には、環境構成委員が中心となり、過去の事例や他園の取組みなどを紹介したことで、保育の再構築に繋がった。今後も子どもの興味関心に寄添いながら保育をする中で、今以上に地域資源を活用し、地域や保護者、その道のプロの方々を巻き込んでリアルな体験を心がけていきたい。</li> <li>・行事に関して、コロナによる制限をなくし、多くの方々に参加していただいた。子どもたちも制限のない中、のびのびとたくさんのごことにチャレンジすることができた。一つひとつの出来事が自信に繋がり、行事を通して一人ひとりが大きく成長できた。また、今年度は、新たな取組みとしてクラス交流会を行った。ほとんどの保護者が参加され、子育てのことや子どもの成長についてのことなど、たくさんのお話が弾み、自然とクラス間の交流も深まっていた。より良い関係性の構築のため、今後も継続して取り組んでいきたい。</li> <li>・報道等で不適切保育や保育中の事故に関する報告が多くあった。この問題は避けては通れないことであるため、他人事ではなく自分事として認識し、子どもたちが安心して安全に過ごせる園であり続けるため、定期的な職員指導と子どもへの関わり方についての振り返りを行った。この件については、今後も継続して指導をしていきたいと思う。</li> <li>・保育や子どもを取り巻く環境がめまぐるしく変わり続ける時代であるため、今後も各研修に積極的に参加し保育の質の向上に努めていきたいと思う。</li> </ul>
---

園名 ひがし保育園

氏名 川村 隆晶